

公益財団法人 日本バレーボール協会
第 7 期・2016 年度事業計画
(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

1. 事業方針

本協会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

更に、財務体質の改善や風土改革そして競技人口の減少と言った近年の慢性的課題に終止符を打つべく、本年は「守りから攻めへの転換の年」とし、成果を産み出すべく取組みを開始する。

本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

▶ バレーボール力の強化

「普及と強化は全ての基本である」ことを念頭に

1. 本年開催されるリオデジャネイロオリンピックへの出場を目指し突き進む
2. 東京 2020 大会を見据え、明確な目標設定と厳しい工程管理により、現在の「若手有望選手から代表チームへ」との一貫強化体制を更に精度アップし、未来に繋がる夢の持てる強化体制を構築する
3. 選手の発掘・育成・強化および競技会の企画・運営等、2016 年をビーチバレーボール元年として再出発する
4. 競技人口の拡大・選手の発掘育成・指導者の資質向上・強化体制の改善に向けプロジェクト・コアを見直しその内容の充実を図る

▶ 組織力・人間力の強化

1. 社会的責任を果たせる組織となるためにガバナンスを確立する
2. 企画・告知・集客・メディア対応等総ての基本を「ファン目線」及び「アスリートファースト」とする
3. 風土改革・人材登用等により自由闊達な運営を目指す
4. 予算立案・経費削減・3C (commit、communicate、complete) 等意識改革を図ると共に、国際折衝力やマーケティング力の強化により収益増を図り、財務基盤を強化する
5. コンプライアンス体制を強化し、暴力・体罰・ハラスメントの根絶に向けた対策を推進していく
6. 2050 年構想とそれに基づく中期計画策定の取組みを開始する

No.	表記	正式名
(1)	JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会
(2)	FIVB	国際バレーボール連盟
(3)	AVC	アジアバレーボール連盟
(4)	NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター
(5)	JADA	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
(6)	Vリーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
(7)	JVA	公益財団法人日本バレーボール協会

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

本年度、男子・女子ともに 2016 リオデジャネイロオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会で五輪出場権獲得を最初の目標とし、同オリンピックでのメダル獲得を最大の目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC を中心に 80 日間実施。

海外合宿・アメリカほかで 32 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 60～70 日間実施。

海外合宿・中国、ブラジルで 20 日間実施

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム。

2) 男子・女子 U-23 日本代表チーム強化合宿

2017 年度に開催される第 2 回アジア U-23 選手権大会及び第 3 回世界 U-23 選手権大会の出場を目指し選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC を中心に 50 日間実施

■女子：国内合宿・NTC を中心に 60 日間実施

注) U23 チームとは、2017 年の大会出場を予定するため 1995 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

2017 年度に開催されるユニバーシアード大会 (2 年に 1 回開催)、また、女子はアジア東部地区大会でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 10 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC ほかで 20 日間実施。

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム。

4) 男子・女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

本年度は、第18回アジアジュニア選手権大会（U-20）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCほかで30日間程度実施。

■女子：国内合宿・NTCを中心に45日間実施。

注) ジュニアチームとは、男子が1997年1月1日以降に、女子が1998年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

5) 男子・女子ユース日本代表チーム強化合宿

2017年度に開催される第11回アジアユース選手権大会及び第15回世界ユース選手権大会の出場を目指し選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCほかで30日間程度実施。

■女子：国内合宿・NTCを中心に30日間実施。

注) ユースチームとは、2017年の大会出場を予定するため、男子が2000年1月1日以降に、女子が2001年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化学業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行う。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行う。

6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施する。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

■男子：2016リオデジャネイロオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会（日本、5/28-6/5）

ワールドリーグ・2nd グループ

(日本・エジプト・中国、6/17～7/3 及び決勝 Final 4 7/9-10)

第 31 回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ, 8/6-21)

- 女子：2016 リオデジャネイロオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選大会
(日本、5/14-22)

ワールドグランプリ

(ブラジル・アメリカ・日本、6/9～6/26 及び決勝 タイ 7/6-10)

第 31 回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ, 8/6-21)

2) ユニバーシアード日本代表チーム

- 女子：東アジア地区女子選手権大会 (香港、7月予定)

3) U-23 日本代表チーム

- 男子：第 5 回アジアカップ男子大会 (インド、9/19～25)

- 女子：第 5 回アジアカップ女子大会 (ベトナム、9/12～18)

4) ジュニア日本代表チーム

- 男子：第 18 回アジアジュニア男子選手権大会 (U-20) (台湾、7/9～7/19)

- 女子：第 18 回アジアジュニア女子選手権大会 (U-19) (タイ、7/23～7/31)

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) 2016 リオデジャネイロオリンピックバレーボール世界最終予選兼アジア大陸予選大会

FIVB が 4 年に 1 回オリンピックの予選として開催する 2016 リオデジャネイロオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選男女大会 (以下「OQT」という。)を FIVB と協力して日本で開催する。

OQT は日本にとって、オリンピック出場資格を獲得するための、アジア大陸予選を兼ねた世界最終予選であり、リオデジャネイロオリンピック出場へ重要な大会である。

➤開催期間：5月14日(土)～6月5日(日)《男女各7試合日》

➤試合日：《女子》5/14、15、17、18、20、21、22

《男子》5/28、29、31、6/1、2、4、5

➤開催都市：東京(東京体育館)

➤参加国：各大陸予選でまだ出場資格を獲得していない国の中から(アジアはアジア大陸予選参加国を含む)男女各8カ国(選手団280人、競技役員30人、計310人が来日予定)

➤試合数：女子大会 延べ28試合／男子大会 延べ28試合

《1日4試合×7日×男女大会》

2) FIVB ワールドリーグ 2016

FIVB は、男子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。今年のリオデジャネイロオリンピック開催年となり、通常はインターコンチネンタル・ラウンドを全 6 週で開催するところが全 3 週の開催となる。日本はインターコンチネンタル・ラウンド（グループ 2）の第 1 週（プール B）を FIVB と協力して開催する。

➤開催期間：6 月 17 日（金）、18 日（土）、19 日（日）

➤開催都市：大阪（大阪中央体育館）

➤参加国：日本、キューバ、フィンランド、韓国
（選手団 60 人、競技役員 6 人、計 66 人が来日予定）

➤試合数：延べ 6 試合《1 日 2 試合×3 日》

3) FIVB ワールドグランプリ 2016

FIVB は女子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、予選ラウンドの第 3 週（プール I）を FIVB と協力して開催する。決勝ラウンドはタイで開催予定。

➤開催期間：6 月 24 日（金）、25 日（土）、26 日（日）

➤開催都市：京都（島津アリーナ京都）

➤参加国：日本、ロシア、タイ、セルビア
（選手団 60 人、競技役員 6 人、計 66 人が来日予定）

➤試合数：延べ 6 試合《1 日 2 試合×3 日》

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員ほかを派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へ競技会で使用したり、全国のバレーボール愛好者から寄贈されたボール他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会 (NF) との友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

① ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、特に小学生、中学生が著しく減少している。その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足などが考えられる。競技人口を増やすことは喫急の課題であるため、本会ではゴールドプランを検証・整理し、事業のリニューアルも含めた中期計画を作成する。また、競技人口拡大に向けた新たなシステムを導入し、講習会や各種教室を通してゴールドプランの充実を図ることを念頭に今年度は下記の事業を継続して実施する。

- 1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室
小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催している。全国10会場で開催する。
(開催地については調整中)
- 2) 全国小中学生一貫バレーボール教室
小中合同のバレーボール教室を開催する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものである。全国3会場で実施する。(開催地については調整中)
- 3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業
幼児期にソフトバレーボールを通して、スポーツの楽しさを伝える環境を作るとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。全国9ブロック単位で実施する。(10会場)
- 4) 全国小学生バレーボール指導者研修会
小学生の指導者を対象として第一次・第二次・第三次講習会をそれぞれ5会場ずつ、15都道府県で開催する。
- 5) 全国中学生バレーボール指導者研修会
中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を毎年各地で開催している。20都道府県で実施する。(参加者見込数・450名)

② 指導者養成事業

上記のほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

- 1) 都道府県別バレーボール指導者研修会
各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国20都道府県で開催する。
- 2) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会
ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に東京都で開催する。
- 3) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会
日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

(参加者見込数・330名)

4) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都・大阪府で開催する。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	開催期間	開催都市	参加者数
全国ラインジャッジ・クリニック	28.04.30～05.02	大阪府大阪市	60名
国際審判員・国際候補審判員技術強化事業	28.04.30～05.02	大阪府大阪市	35名
全国6人制審判講習会	28.03.20	東京都港区	350名
全国9人制審判講習会	28.03.27	大阪府大阪市	300名
ブロックA級審判員講習会	28.04.01～08.31	全国各ブロック	950名
技術統計上級判定員認定講習会 スキルアップ講習会	開催日調整中	会場調整中	30名
A級候補審判員講習会（ACキャンプ）	28.08.12～08.15	大阪府東大阪市	100名
B級審判員講習会（レフェリーキャンプ）	28.08.15～08.17	大阪府東大阪市	90名
トップチーム連携事業	28.6.7月 28.9.10月	チャレンジチーム プレミアチーム	未定
A級審判員研修会（6人制）	28.11.28～12.04	東京都・愛知県	110名
A級審判員研修会（9人制）	28.11.12～14 28.11.18～20	京都府（男子） 大阪府（女子）	50名 50名

*参加者は見込数

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することを目標に、バレーボールの特性を活かしながら本質的な素晴らしさを伝える指導者資格として以下の認定登録を行う。

- 小学生バレーボール指導者資格 ○ソフトバレーボール・リーダー
- ソフトバレーボール・マスターリーダー ○公認講師

2) 審判員資格認定事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定登録を行う。

- A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員 ○C級審判員
- レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行う。

- 技術統計判定指導員 ○技術統計上級判定員 ○技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

本会に登録する全てのチーム（小学生を除く）が一年度を通して天皇杯・皇后杯の名を冠するに相応しい、国内最高峰大会として位置づけられている大会である。本年はその10回目として以下の日程で実施する。

■都道府県ラウンド：

➤開催期間：平成28年4月～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館（1,000チーム・18,000名参加見込）

■ブロックラウンド：

➤開催期間：平成28年9月～10月

➤開催都市：各地域ブロック内体育館（206チーム・3,708名参加見込）

■ファイナルラウンド：

➤開催期間：平成28年12月16日～18日、24日～25日

➤開催都市：東京（1回戦～決勝）（48チーム・864名参加見込）

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

■都道府県大会：

➤開催期間：平成28年4月～7月

➤開催都市：各都道府県内体育館（2,795チーム・33,540名参加見込）

（参考・都道府県内予選を含めると参加は約7,400チーム）

■全国大会：

➤開催期間：平成28年8月9日～12日

➤開催都市：東京他（東京体育館他）（都道府県代表138チーム・1,764名参加見込）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、以下の日程で実施する。

➤開催期間：平成28年12月24日～27日

➤開催都市：大阪（大阪中央体育館他）（96チーム・1,440名参加見込）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として以下の日程で実施する。

➤開催期間：平成29年1月4日～8日（1回戦～決勝）

➤開催都市：東京（東京体育館）（104チーム・1,872名参加見込）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、以下の日程で大学日本一を決める大会を実施する。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

➤開催期間：平成 28 年 11 月 28 日～12 月 3 日

➤開催都市：愛知県名古屋市（64 チーム・1,152 名参加見込）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

➤開催期間：平成 28 年 11 月 28 日～12 月 4 日

➤開催都市：東京都（120 チーム・2,160 名参加見込）

⑥前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施する。

大会名等	開催期間	開催都市	参加チーム数・人数(見込)
全日本⑨実業団女子選手権大会	28.07.01～04	滋賀県大津市	21 チーム・300 人
全国ママさん大会（⑨）	調整中	調整中	48 チーム・720 人
全日本⑨実業団男子選手権大会	28.07.22～25	島根県松江市	60 チーム・1,005 人
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	28.08.04～07	千葉県千葉市	48 チーム・720 人
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	28.08.11～14	三重県伊勢市	64 チーム・1,088 人
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	28.10.21～23	大分県別府市他	61 チーム・915 人
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	28.11.03～06	北海道江別市	60 チーム・900 人
全日本⑨総合男子選手権大会	28.11.12～14	京都府京都市	60 チーム・900 人
全日本⑨総合女子選手権大会	28.11.18～20	大阪府大阪市	53 チーム・780 人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	28.04.30～05.05	大阪府大阪市	32 チーム・576 人
全日本クラブカップ男子選手権大会	28.07.28～31	宮城県仙台市	64 チーム・832 人
全日本クラブカップ女子選手権大会	28.08.12～14	大阪府大阪市	56 チーム・896 人
全国ヤングクラブ優勝大会	28.09.24～25	大阪府大阪市	98 チーム・1,680 人
以上⑨は 9 人制大会、その他は 6 人制大会			
全国ソフトバレー・シルバースフェスティバル	28.10.08～10.09	徳島県鳴門市	54 チーム・486 人
全国ソフトバレー・レディーズフェスティバル	28.10.29～10.30	沖縄県那覇市	51 チーム・421 人
全国ヴィンテージ 8'S 交流大会	28.09.30～10.02	北海道函館市	40 チーム・600 人

⑦公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

➤日程：平成 28 年 10 月 2 日～5 日 ➤開催都市：岩手県一関市・花巻市

2) 日本スポーツマスターズ 2016

➤日程：平成 28 年 9 月 24 日～27 日 ➤開催都市：秋田県秋田市

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

➤日程：平成 28 年 7 月 29 日～8 月 2 日 ➤開催都市：山口県山口市・宇部市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

➤日程：平成 28 年 8 月 3 日～8 月 7 日 ➤開催都市：山口県山口市・防府市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

➤日程：平成 28 年 8 月 3 日～7 日 ➤開催都市：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

➤日程：平成28年8月20日～22日 ➤開催都市：富山県魚津市・黒部市・入善町

（5）ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

本年度、男子・女子ともに第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)出場権獲得を最大の目標とし、以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

・FIVB ワールドツアー（世界各地で2月～10月まで19大会開催）

内、3～4大会に派遣

・AVC アジアツアー（アジア域内で4月～10月まで6大会開催）

内、3～4大会に派遣

・AVC コンチネンタルカップリオデジャネイロオリンピックアジア大陸予選
女子第3フェーズ（タイ、5/12-14）

・AVC コンチネンタルカップリオデジャネイロオリンピックアジア大陸予選
男女第4フェーズ（オーストラリア、6/20-26）

・2016 リオデジャネイロオリンピック世界最終予選会（ロシア、7月6日～10日）

・第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ、8/6-18)

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦による選手選考を行い、選抜した有望選手を以下の世代別国際大会に派遣する。

・FIVB U-21 世界選手権大会（スイス、5/11-16）

・FIVB U-19 世界選手権大会（キプロス、7/26-31）

・FIVB U-17 世界選手権大会（ブラジル、7/12-17）

・FISU 世界大学選手権大会（エストニア、7/13-17）

②講習会開催事業

1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催する。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催する。

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016年度、これまでJVAが主催した「シリーズA」と日本ビーチバレーボール連盟が主催した「JBV ツアー」を統合し、「ジャパンビーチバレーボールツアー」として新たな大会を新設する。

日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の確立と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、5月～10月に全国各地で大会を開催する。

2016年度開催日並びに開催都市：

ジャパンビーチバレーボールツアー	開催期間	開催都市
第1戦 東京大会	28.05.03～05	東京都港区
第2戦 志摩大会	28.06.18～19	三重県志摩市
第3戦 南あわじ大会	28.06.25～26	兵庫県南あわじ市
第4戦 東京大会	28.07.01～03	東京都港区
第5戦 行橋大会	28.07.17～18	福岡県行橋市
第6戦 大洗大会	28.07.23～24	茨城県東茨城郡大洗町
第7戦 若狭おばま大会	28.08.06～07	福井県小浜市
第8戦 伊予市大会	28.09.03～04	愛媛県伊予市
第9戦 東京大会	28.09.17～19	東京都港区
第10戦 宮崎大会/霧島酒造オープン	28.09.23～25	宮崎県都城市
第11戦 川崎大会/川崎市長杯	28.10.07～09	神奈川県川崎市

【ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル】

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル	開催期間	開催都市
グランフロント大阪大会	28.10.01～02	大阪府大阪市

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（イベント事業）

国民体育大会のイベント事業として、本年は以下の日程で実施する。

大会名等	開催期間	開催都市
第71回国民体育大会 イベント事業	28.08.19～21	岩手県陸前高田市

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

大会名等	開催期間	開催都市
第27回全日本ビーチバレー女子選手権大会	28.07.28～31	大阪府泉南郡岬町
第15回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	28.08.05～08	大阪府阪南市
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	28.08.11～14	愛媛県伊予市
第28回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	28.08.12～14	神奈川県川崎市
第7回全国中学生ビーチバレー大会	28.08.13～14	神奈川県藤沢市
第30回ビーチバレージャパン	28.08.26～28	神奈川県藤沢市

(6) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値、及び本会が所有する各種プロパティの価値の向上のために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛

社の獲得に向け積極的に活動する。

また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行うとともに、本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努める。

(7) バレーボール用品・用具の公認・推薦及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

国内・国際大会のバレーボール観戦者や国内大会の出場者に対しては、観戦や出場を通して国民の一体感や個人のマナー、あるいは真摯な挑戦やその姿を見ることによる感動など、豊かな人間性を育むことを目的に、応援グッズや参加記念品ほか本会公認物品の販売を行う。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(9) V リーグ開催及び開催支援事業

V リーグ機構が主催する V リーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

同時に、V リーグ機構が全国各地で開催する大会の競技会運営、適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員、技術統計判定員ほかを派遣、V リーグの開催支援事業を行う。

(10) 地域グループ育成・強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行う。加盟団体の新公益法人制度に伴う移行作業及び法人化準備作業に向け各種の支援を行う。

(11) 東京 2020 大会準備室

バレーボール、ビーチバレーボール競技会の成功を目途に JVA 事務局に準備室を設置し、競技施設、競技運営、テストイベント開催、事前キャンプ、スポーツマネジャー等の選任について公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（TOCOG）との緊密な連携と積極的協力を促進する。

(12) その他

- ①2050 年構想・中期計画（2016 年から 2020 年）を策定し、実行に移す。
- ②コンプライアンスの強化を推進する。（コンプライアンス規程の制定と委員会の設置）
- ③「ファン目線」に立った広報活動を展開する。
- ④JVA の事業戦略に適合した IT 環境の整備と強化を図る。
- ⑤国内リーグ発足（日本リーグ・V リーグを含め）50 周年事業を V リーグ機構と連携して展開する。

以上